

建材試験 センター会報 3

1970

VOL. 6

N O. 3

・ 建材開発と目標設定

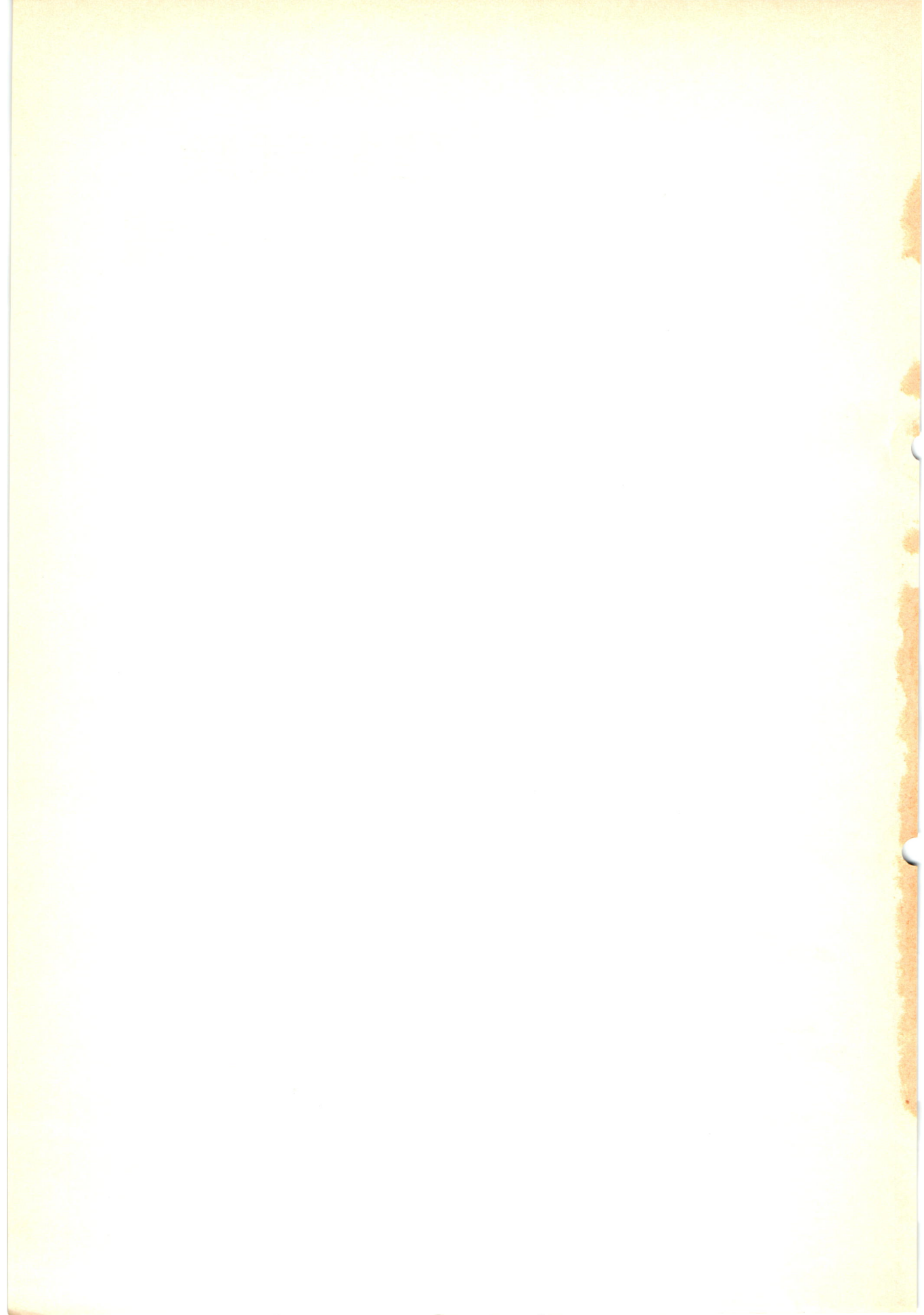
井口 洋佑

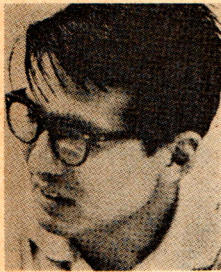
・ I 試験報告 シボレックス施工用
吹付け塗料の性能試験

・ II 業務報告

1. 昭和45年1月度受託状況
2. 会合その他の事項







建材とは何であろうか。地上にあるものは砂・砂利・水などから割れた土びんまで建材として利用できないものはない。砂・砂利などはそのままで床材料として使用できるし、モルタル・コンクリートなどの骨材としても利用される。割れた土びんは、壁面装飾の素材として利用された例もある。水は、池という一種の床材料として利用されているし、モルタル・コンクリートなどには欠かせない。このような例を挙げていけば、地上にある材料はすべて何らかの形で建材としての可能性を持ち、何らかの形で利用されているといっても過言ではなからう。

地上にある材料は、すべて建材としての可能性を持っているとはいえ、建材とその他の材料とは、何によって区別されているのであろうか。建材とは、建築に使われる目的を持ち、そのための市場価値が与えられた材料だと小生は解釈する。

従来の建築、たとえば在来木造住宅に使われてきた建材のなかには、明確な使用目的を持ち使われ方も明確な建材があった。たとえば、瓦・畳・ふすまなどがそれである。また、挽き角材・挽き割材などの木材は、瓦・畳などほど明確な使用目的はなくとも、伝統的技術の蓄積によって、建築への適用の方法は、予定され、消化されつくされていた。

建築の様式が固定し、一定の様式によって建築が生産される固定化した時代の建材は、このような明確な使用目的と建築への消化された適用の技術的裏付けを持ち得た。

近代建築は、流動する時代を反映しつつ産まれてきたものである。近代の建築に用いられる工業生産によって産み出された建材には、明確な使用目的と、消化された適用の技術的裏付けのないままに、生産されたものが多かった。工業生産という生産手段はその初期の段階において少品種大量生産を要求するものであった。わが国の工業生産による建材は、この素朴（そぼく）な大量生産という要求と、工場の廃材利用という要求などの生産者側からのみの要求によって生産されて来たものが大半であった。肥料工場から出る石膏（こう）という廃材の利用から産れた石膏ボードなどの例を考えれば、容易に理解できることであろう。このような工業生産の初期の段階の建材は、あいまいな使用目的の設定から産れた建材であり、適用方法の予定された技術の裏付けがなくとも、使用者にすべてをゆだねれば、使用者が適当に使用目的を設定し、適用技術を解決することで過すことができた時代もあった。

現在では、生産者が、明確な使用目的を持たない建

材を、生産者だけの都合から生産し適用の技術の裏づけなしに売り放すことは許されない時代になってしまってきている。

建材が建築のために用いられる材料であれば、建築の要求にしたがって産み出される建材こそ、本来の建材だというべきであろう。事実、現在もっとも高度の工業生産された建材を駆使（くし）したといってよい超高層建築では、パーライトモルタルなどの耐火被覆材料などのように建築側からの要求にしたがって新しく開発された建材も増えてきている。超高層建築では、従来のいわゆる建築デザイナーは不要だという話しもささやかれ、アレンジャーとメーカーによって建築は可能だとさえ極論されている。建材メーカーは、自社製品の責任施工を行なうことが超高層建築などでは普通にさえなっている。

現在のように流動している時代においては、建材に限らず、どのような分野の商品であれ今後10年間安定した商品である見通しの持てる商品は存在しない。このような時代を反映して、メーカーは製品開発に必死であり、建材メーカーでも、製品開発に力を注ぐ会社がふえてきている。小生の研究室も、このような依頼を受ける機会が多く、また、開発研究の研究委員会のメンバーに加えられる機会も多い。このような機会を通じてメーカーから依頼される研究は、明確な使用目的に関する目標設定なしに産れてしまった製品を、いかに建築に適用するかという本来転倒の技術開発が主である場合が多く、依頼者のなかには、自社の建材自体に精通していても、その建材がどのように実際に使われているかを一切知らない人も多いのに驚く。

生産という行為を含めて、研究であれ設計であれ、目標設定からすべての結果が産み出されるものであり、目標の設定が適確であり精密であればあるほど、無駄のない矛盾のない良好な結果が産まれて来ることを日頃痛感している。あいまいな目標のままに、または目

標らしい目標を設定できないままに、生産する建材メーカーがあり、研究を行なう委員会が多いのはどうしたものであろうか。目標は設定しても、建築の要求が

らはずれたビントのぼけた研究開発に資金を注ぐ場合が多いのはどうしたものであろうか。

＜筆者：東京理科大学助教授・工博＞

I 試験報告

シボレックス施工用吹付け塗料の性能試験

試験成績書第1932号（依試第1637号）

この欄で掲載する報告書は依頼者の了解を得たものである。

1. 試験の目的

シボレックス販売側の依頼により、シボレックス施工用吹付け塗料の性能試験を行なう。

2. 試験の内容

シボレックス施工用吹付け塗料の耐久性について下記の項目の試験を行なった。

- (1) 密着性 (4) 耐凍害性
- (2) 透湿抵抗 (5) 耐屈曲性
- (3) 防水性 (6) 耐エフロ性

密着性、透湿抵抗、防水性および屈曲性の試験は老化促進処理、および無処理の試験体について行なった。また耐凍害性試験は吸水処理および無処理の試験体について行ない、耐エフロ性試験は無処理の試験体についてのみ行なった。

3. 試験体

依頼者から提出された塗料、および試験用下地板の名称・数量および使用方法を表1・表2および表3に示す。これらの塗料および下地板を使用して表4に示す試験体を作成し、7日間以上の室内養生を行なった。なお塗料の吹付け施工は依頼者が中央試験所においてガンを使用して行なった。

4. 試験方法

4.1 共通事項

(1) 老化促進処理

密着性、透湿抵抗、防水性および耐屈曲性の試験において試験体の老化促進処理を行なった。

試験体をサンシャインウエザーメーター（東洋理化製WE-SUN-HC型）に取り付け、表5に示す条件のもとに照射を行なった。

4.2 密着性試験

無処理および老化促進処理の試験体を使用して密着性試験を行なった。図1に示すように、安全剃刀を用いて塗装面に2mm間隔で、縦横の線をそれぞれ11本

表1 塗料の名称および数量

塗料 記号	数量 (kg)		
	下塗り	中塗り	上塗り
A	5	20	20
B	1	14	—
C	1	5	14
D	3	5	5
E	1	10	10
F	10	10	—
G	10	20	20

表2 下地板の名称および数量

名称	数量	試験項目
シボレックス (厚さ70大さき600×600)	16	耐エフロ性
シボレックス (厚さ50大さき150×100)	105	防水性・耐凍害性
シボレックス (厚さ25大さき300×300)	63	透湿抵抗
スレート (厚さ3大さき50×150)	63	密着性
亜鉛鉄板 (厚さ0.28大さき50×150)	105	耐屈曲性

の線を引いて塗装膜を切り100個の方眼を作った。粘着テープを方眼の全面にはりつけたのち、90°の角度で引き剥がし、剥がれた方眼の数を測定し、つぎの分数式によって密着性を表わした。

$$\text{密着性} = \frac{\text{はがれた方眼の数}}{100}$$

4.3 透湿抵抗試験

無処理および老化促進処理の試験体を使用し、温度20℃、湿度45%の試験室において透湿抵抗試験を行なった。

図2に示す形状・寸法のアルミニウム容器の底に水1lを入れ、中段に試験体を置きその周囲をミツロウ＋パラフィンの混合液で密封した。これを試験室に100時間放置したのち、24時間毎に重量を測定し、時間に対する重量変化の割合が定常となるまで測定を継続した。

測定結果より定常状態において試験体を単位時間に通過する水蒸気量を求め、つぎの式によって透湿抵抗および透湿係数を算出した。

表3 塗料の使用法

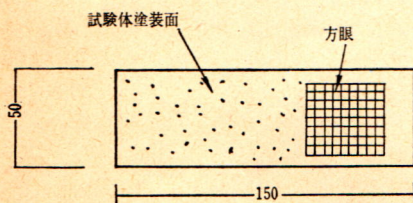
塗料 記号	仕 様	塗 装 方 法		
		下 塗	中 塗	上 塗
A	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	2倍液 1回に0.08~0.1kg/m ² 2時間以上	1kgに対し水200~300g 1回に1.0~1.2kg/m ² 3時間以上	1kgに対し水100~200g 1回に0.8~1.0kg/m ² 3時間以上
B	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	3倍液 1回に0.08kg/m ² 30分以上	1kgに対し水0~100g 1回 0.7kg/m ² 3時間	1kgに対し水0~100g 1回 0.8kg/m ² 3時間
C	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	3倍液 1回に0.08kg/m ² 30分以上	— 1回 0.8kg/m ² 4時間以上	1kgに対し水0~100g 1回 1.2kg/m ² 3時間
D	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	1.5倍液 1回に0.12~0.15kg/m ² 30分~1時間以上	1kgに対し水50~100g 1回 0.78~0.85kg/m ² 1~2時間以上	1kgに対し水0~60g 1回に0.9~1.0kg/m ² 1~2時間以上
E	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	3倍液 1回に0.1kg/m ² 1~1.5時間以上	1kgに対し水0~50g 1回に0.7kg/m ² 1.5~2時間以上	1kgに対し水0~50g 1回に1.3kg/m ² 1.5~2時間以上
F	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	1.3~1.5倍液 1回に0.1~0.12/m ² 20分~30分以上	1kgに対し水50~100g 1~2回で1.8~2.0kg/m ² 30分以上	
G	稀釈方法 吹き付け量 乾燥時間	1.3~1.5倍液 1回に0.1~0.2l/m ² 20分~30分以上	— 1回に1.0~1.2kg/m ² 3時間以上	— 同 左 1回に0.6~0.8kg/m ² 2~3時間以上

表4 試験体

項 目	試験体の処理	下地板の種類	寸 法 (mm)	数 量
密着性	無処理 老化促進	スレート	150×50×3	3枚×7種 3×7
透湿抵抗	無処理 老化促進	シボレックス	300×300×25	3×7 3×7
防水性	無処理 老化促進	シボレックス	150×100×50	2×7 2×7
耐凍害性	無処理 吸水処理	シボレックス	150×100×50	3×7 2×7
耐屈曲性	無処理 老化促進	亜鉛鉄板	150×100×0.28	4×7 4×7
耐エフロ性	無処理	シボレックス	600×600×70	2×7

表5 老化促進の条件

項 目	条 件
光源の種類	サンシャインカーボンアーク
光源と試験体との距離	48cm
アーク電圧	50V
アーク電流	60A
ブラックパネル温度	63°C
機内温度	53±3°C
機内湿度	82%
試料回転架回転数	毎分1回
散 水	な し
照 射 時 間	密着性および透湿抵抗試験体は200時間 防水性および耐屈曲性試験体は500時間



単位mm

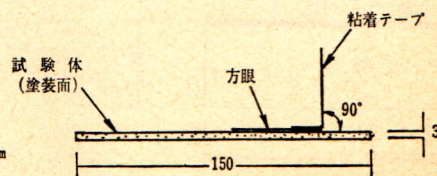


図1

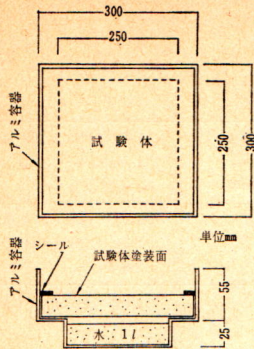


図2
透湿抵抗試験

$$R_V = \frac{A \cdot t \cdot S (R_1 - R_2)}{W} \quad (\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mmHg/g})$$

$$P = \frac{1}{R_V} \quad (\text{g/m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mmHg})$$

ここに R_V = 透湿抵抗

P = 透湿係数

W = 定常状態の重量変化 (g)

t = W に対応する時間 (h)

A = 試験体の透湿面積 = 0.0625m²

S = 試験湿度の飽和水蒸気圧 = 17.53mmHg

$R_1 \cdot R_2$ = 試験体両面の相対湿度

$R_1 = 1.00$

$R_2 = 0.45$

4.4 防水性試験

無処理および老化促進処理の試験体を使用し、温度 20°C 湿度 70% の試験室において防水試験を行なった。図 3 に示すように試験体の塗装面を上にして水平に置き、中央に内径 60mm、高さ 380mm のガラス管を立て、管の下部を油土で水密にして塗装面より 300mm の高さまで水を注ぎ 24 時間後に透水量 (mm) を測定したのち、さらに水を 300mm の高さまで補給した。こ

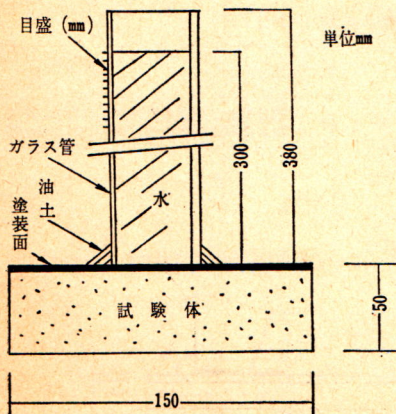


図3
防水性試験

の測定および補給の操作を 7 回繰返して、7 日間における累加透水量 (mm) を求めた。

4.5 耐凍害性試験

無処理および吸水処理の試験体を使用して耐凍害性試験を行なった。図 4 に示すように試験体の塗装面を下にして、水を含んだ脱脂綿の上に置き 24 時間放置して吸水処理を行なった (吸水処理方法)。

試験体を油紙で包み、温度 -10°C の試験室に 16 時間置いて凍結させたのち取り出して、温度 20°C の試験室に 8 時間置いて融解した。これを 1 サイクルとして 15 サイクルを行なった後、4.4 項と同様にして透水量 (mm) を測定した。

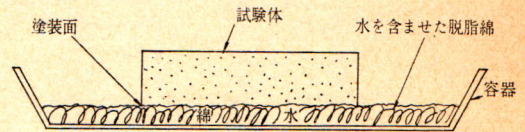


図4 吸水方法

4.6 耐屈曲性試験

無処理および老化促進処理の試験体を使用し、温度 20°C、湿度 70% の試験室において耐屈曲性試験を行なった。試験体を塩化カルシウムを入れたデシケーター内に 1 時間保持したのち取り出して、図 5 に示すように、塗装面を外側にし、内側に鋼製丸棒を当てて、約 1 秒間で 180° の角度に折り曲げ。塗装面に生じるわれを肉眼で観察した。丸棒は直径 2 mm、3 mm、4 mm、6 mm、8 mm、10 mm、15 mm、19 mm、22 mm および 40 mm の 10 種を使用した。

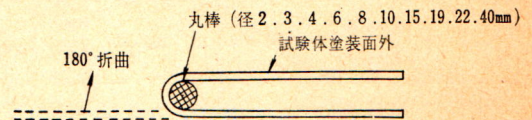


図5 耐屈曲性試験

4.7 耐エフロ性試験

図 6 に示すように試験体の塗装面を外側にし、金属製の容器を取り付け、容器の中に大きさ 4 × 4 × 16 cm、材令 2 週間のモルタル片と水を入れ、21 日間水を満した後、試験体塗装面の白華、変色、ふくれ、はがれなどについて観察を行なった。

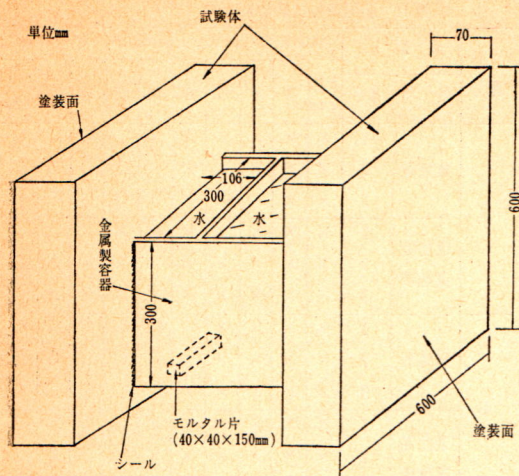


図6 耐エフロ性試験

5. 試験結果

- (1) 密着性試験結果を表6に示す。
- (2) 透湿抵抗性試験結果を表7を示す。
- (3) 防水性試験結果を表8に示す。
- (4) 耐凍害性試験結果を表9に示す。
- (5) 耐屈曲性試験結果を表10に示す。
- (6) 耐エフロ性試験結果を表11に示す。

6. 試験の担当者・期間および場所

担当者 中央試験所長 藤井正一
 有機材料試験課長 鈴木庸夫
 試験実施者 山川清栄
 須藤作幸

期間 昭和44年2月10日から
 昭和44年10月31日まで

場所 中央試験所

表6 密着性試験結果

塗料記号	試験体番号	無処理	老化促進処理
A	1	1/100	10/100
	2	0/100	0/100
	3	0/100	7/100
	平均	0.3/100	5.7/100
B	1	3/100	3/100
	2	0/100	12/100
	3	15/100	5/100
	平均	6/100	6.7/100
C	1	3/100	35/100
	2	18/100	22/100
	3	33/100	40/100
	平均	18/100	32/100
D	1	0/100	0/100
	2	0/100	0/100
	3	0/100	2/100
	平均	0/100	0.7/100
E	1	6/100	18/100
	2	2/100	3/100
	3	0.7100	8/100
	平均	2.7/100	9.7/100
F	1	0/100	5/100
	2	7/100	27/100
	3	28/100	16/100
	平均	12/100	16/100
G	1	3/100	11/100
	2	3/100	5/100
	3	5/100	7/100
	平均	3.7/100	7.7/100
試験日		44年5月16日	44年7月8日

表7 透湿抵抗試験結果

塗料 記号	試番 驗 体号	無 処 理		老化促進処理	
		Rv ($\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mm}$ Hg/g)	P ($\text{g}/\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot$ mmHg)	Rv ($\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mm}$ Hg/g)	P ($\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mm}$ mmHg)
A	1	1.65	0.606	1.44	0.694
	2	2.09	0.478	2.46	0.407
	3	2.00	0.500	4.10	0.244
	平均	1.91	0.528	2.67	0.448
B	1	1.37	0.730	1.98	0.505
	2	0.81	1.235	1.78	0.562
	3	1.52	0.658	1.42	0.704
	平均	1.23	0.874	1.73	0.590
C	1	1.63	0.613	1.34	0.746
	2	0.77	1.299	1.08	0.926
	3	1.77	0.559	1.88	0.532
	平均	1.40	0.824	1.43	0.735
D	1	2.05	0.485	1.55	0.645
	2	1.88	0.532	1.20	0.833
	3	1.55	0.645	1.38	0.781
	平均	1.83	0.554	1.34	0.753
E	1	0.37	2.703	0.31	3.226
	2	0.37	2.703	0.37	2.703
	3	0.39	2.564	0.40	2.500
	平均	0.38	2.657	0.36	2.810
F	1	0.77	1.299	0.78	1.282
	2	0.96	1.042	0.63	1.587
	3	0.92	1.087	0.62	1.613
	平均	0.88	1.143	0.68	1.494
G	1	0.52	1.923	0.56	1.786
	2	0.44	2.273	0.59	1.695
	3	0.61	1.639	0.59	1.695
	平均	0.52	1.945	0.58	1.725
		44年5月26日～8月7日		44年7月21日～10月3日	
(シボレックスの厚さ 25mm)					

表8 防水性試験結果

塗料 記号	試験体 番号	7日間の透水量 (mm)	
		無処 理	老化促進処 理
A	1	5	15
	2	7	7
	平均	6	12
B	1	59	21
	2	27	14
	平均	43	18
C	1	27	133
	2	33	32
	平均	30	83
D	1	6	5
	2	7	7
	平均	6	6
E	1	24	42
	2	23	143
	平均	24	93
F	1	38	89
	2	33	88
	平均	36	89
G	1	16	33
	2	23	42
	平均	20	38
試験日		44年6月3日～10日	44年7月3日～10日

(シボレックスの厚さ 50mm)

表9 耐凍害性試験結果

塗料 記号	試験体 番号	無処 理		吸水処 理	
		観察事項	7日間の 吸水量(mm)	観察事項	7日間の 吸水量(mm)
A	1	異状なし	5.5	異状なし	5.0
	2	"	24.0	"	6.0
	3	"	3.5	"	—
	平均	—	11.0	—	5.5
B	1	異状なし	50.0	異状なし	8.0
	2	"	77.0	"	33.0
	3	"	82.0	—	—
	平均	—	69.7	—	20.5
C	1	異状なし	24.0	異状なし	59.0
	2	"	14.0	"	8.0
	3	"	70.0	—	—
	平均	—	36.0	—	33.5
D	1	異状なし	3.0	異状なし	2.0
	2	"	50.0	"	4.0
	3	"	6.0	—	—
	平均	—	19.7	—	3.0
E	1	異状なし	118.0	異状なし	149.0
	2	"	125.0	"	150.0
	3	"	132.0	—	—
	平均	—	125.0	—	149.5
F	1	異状なし	99.0	異状なし	110.0
	2	"	135.0	"	63.0
	3	"	138.0	—	—
	平均	—	124.0	—	86.5
G	1	異状なし	64.0	異状なし	54.0
	2	"	83.0	"	61.0
	3	"	35.0	—	—
	平均	—	60.7	—	57.5
試験日		44年8月22日～29日	44年10月21日～27日		

(シボレックスの厚さ 25mm)

表10 耐屈曲性試験結果

塗料 配号	試験体 処 理	試験体 番号	試験結果(○印はわれなし, ×印はわれ, △印はわずかな割れ)											
			丸棒 2mm	3	4	5	8	10	15	19	22	丸棒 40mm		
A	無処理	1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○		
		2	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○		
		3	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○		
	老化促進処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○		
B	無処理	1	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○		
		2	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○		
		3	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○		
	老化促進処理	1	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○		
		2	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○		
		3	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○		
C	無処理	1						×	○	○	○	○		
		2						×	○	○	○	○		
		3						×	○	○	○	○		
	老化促進処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○		
D	老化促進処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	無処理	1	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
		2	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
E	老化促進処理	1	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○		
		2	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○		
		3	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○		
	無処理	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
F	老化促進処理	1	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
		2	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
		3	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○		
	無処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
G	老化促進処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	無処理	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

試験日 無処理 44年7月8日 老化促進処理 44年7月8日

表 11 耐エフロ性試験結果

試験体		観 察 結 果
記号	No.	
A	1	変色・ふくれおよびはがれ 変化なし
	2	
B	1	変色・ふくれおよびはがれ 変化なし
	2	
C	1	変色・ふくれおよびはがれ 変化なし
	2	
D	1	変色・ふくれおよびはがれ 変化なし
	2	
E	1	白樺しわずかにふくれた
	2	
F	1	変色・ふくれおよびはがれ 変化なし
	2	
G	1	塗装面の中心部直径24.5mmの丸いしみができる
	2	

試験日 5月22日～6月12日

Ⅱ 業務報告

1. 受託試験

(イ) 1月度の工事用材料を除いた受託件数は、93件(依試第2444号～第2536号)であった。その内訳を表1に示す。

(ロ) 1月度の工事用材料の受託件数は総数800件で、その内訳を表2に示す。

表 2 工事用材料の受託状況(件数)

試験内容	受付場所		合計
	中央試験所	本部 (銀座事務所)	
コンクリート、 シリンダー 圧縮試験	398	183	581
鋼材の引張・曲げ試験	86	117	203
骨 材 試 験	5	4	9
そ の 他	5	2	7
合 計	494	306	800

2. 調査研究、技術相談

1月度は4件であった。

2. 会合その他の事項

(1) 工業標準原案作成関係

・建築材料の摩耗試験方法(研摩紙法)

第5回小委員会 12月22日

国産と輸入のテーパー試験機差、ばらつきについて実験データにつき検討をした。

・床用ビニルシート 第5回小委員会 1月14日

検討課題の幅、長さ、厚さ寸法とその許容差。寸法安定性について検討。

・防水工事用アスファルトコンパウンド

第5回小委員会 1月13日

原案の逐条検討、実験(第1次)の報告と検討。

・空洞コンクリートブロック(JIS A 5406)改正

第5回小委員会 1月13日

メーカーの実態について検討。改正原案の逐条検討。

・せっこうボード(JIS A 6901)改正

改正原案の逐条検討。建設省告示による防火性能試験方法にもとづく検討。化粧ボードを追加することにつき検討。

(2) 日本住宅公団関係(KMK)

・陶磁器タイル圧着用材料及施工法

第9回部会 1月7日

仕様書再修正案の検討。実験対象現場の現況、試験方法適用状況とその試験方法の検討。

(3) 業務会議

中央試験所 3回

(4) その他

三木会(関係新聞社との懇談会) 1月21日

建材試験センター会報 Vol. 6 No. 3 (3月号)

財団法人 建材試験センター

本 部 東京都中央区銀座六丁目15の1

通商産業省銀座東分室内

電話(542)2744(代)

中央試験所 埼玉県草加市稲荷町1804

電話(0489)24-1991(代)

表 1 依頼試験受託状況(依試第2444号~第2536号)

No.	材 料 区 分	材 料 一 般 名 称	試 験 内 容 の 概 要	件数
1	木材・繊維質材・ボード類	化粧石膏ボード, 化粧ボード	防火材料	2
2	セメント・コンクリート製品	化粧石綿板	防火材料	1
3	モルタル・コンクリート	砕石, 人工軽量骨材	安定性, 比重, 吸水, すりへり, 洗いふるい分け, 単位容積重量, 粒形判定実効率	3
4	左 官 材	混和剤, プライマー 防水剤, 外装吹付け剤	透水, 接着, 衝撃, 防露, 耐アルカリ, 耐水性, 凍結融解, 凝結, 安定性, 強さ	11
5	鉄 鋼 材	化粧鋼板, ボルト	防火材料, 引張り	2
6	ガラス材	網入りガラス, グラスウール けい酸防火板	熱伝導率, 繊維の太さ密度, 曲げ, 吸音, 防火材料, 耐水	7
7	家具・建具	椅子, 机, 耐火庫, 書庫, 鋼製ドア, アルミサッシ, ドア, 浴そう	くり返し衝撃, 転倒, 荷重, 塗膜, 耐火付着, ビンホール, ひび割れ, 耐熱, 砂袋衝撃, まもう, 遮音	38
8	プラスチック材	ウレタンフォーム, ポリエチレン プラスチック合板, ビーム	防火材料, 曲げ	7
9	シール材	油性コーキング パテ, シーリング材	加熱減量, 作業性, 軟度, スランプ, 硬化性, 亀裂, 耐水, 耐アルカリ	3
10	石材造石	岩綿保温材 沸石	熱伝導率, 繊維の太さ, 密度, 粒子含有率, 熱量流, 防火材料	4
11	塗 料	塗料, 防火塗料	接着力, 引張強度, 保水性, 結露, 耐アルカリ, 乾燥時間, 防火材料	2
12	紙・布, カーテン敷物類	ビニルシート ビニルレザー	はとめ, 防火材料, 耐薬品, 長さ変化量, へこみ, 加熱減量, すべり	3
13	皮膜防水材	アスファルトルーフィング	アスファルト含有率, 原布重量, 引張り, 伸長率, せんい含有量	2
14	パネル類	軽量コンクリートパネル アルミパネル	熱変形量, 層間変位, 曲げ	2
15	防耐火材	岩綿, 耐火屋根材	耐火, 防火材料	6
合 計				93